



かかとのリズム

手嶋 千尋

(福岡)

五線紙のうえのぶどうは鉛筆で塗られた音符 くるくる光る

鉛筆で塗られた音符は黒光り 笛吹川の巨峰のごとく

ぬばたまの音符の群れはわたくしの手書きと思いつき出すまで五秒

本棚は隠し部屋なのかふたむかし二昔まえのわたしの五線譜出現

本棚にナフタリンは入れません発酵しない手書きの楽譜

ふたむかし二昔まえのわたしの五線譜は暗号のよう 断捨離頓挫

ラジカセに面と向き合いエアチェック 80年代 耳の原点

ラジカセに体重かけてエアチェック YMOはかかるとに響く

曲づくりは十年周期の趣味でしたフロッピーには眠る音源

鍵盤を奏でるようにかかとかから指先 三十一音つづる

カセットをクラスメートに配るようLINEで送るわたしの短歌

本棚の『坊ちゃん』めがけ少年はかかるとを浮かせ背伸びしていた

本棚の『坊ちゃん』めがけ背伸びした少年の背丈本棚を越す

霧はれて虹のヴェイナスあらわれるようなアコースティックギターのメロディ

白鍵と黒鍵のようにユリカモメと川鶉がならぶアーチのうえに

このごろの私

「ソーイング・ビー」はずつとはまっている番組。元はBBC放送の裁縫勝ち抜きバトル。針仕事は全く苦手だが斬新でカラフルな作品に心躍る。楽しみに少しずつ観ている。録画が結構溜まっている。



島津紫

清水佑太郎

(東京)

このごろの私
出不精の私ですが二〇二三年はよく旅をしました。三月にも行きます。我ながら「盛れた」写真をパスポート用の写真にしました。仕事の旅でマイルを貯めつつ、次の行き先は……。家にいたいです。

車内販売来ない新幹線の中サントアのいないクリスマスのような方言と標準語との汽水域で溺れています鹿児島中央

突然にかごんまべんは聞こえる女子高生の笑みの中から

暮れ方のバスターミナルすぎゆけば懐かしき鹿児島弁の抑揚

「鹿児島ノ人ハ日本語喋ルマセン」メキシコ人の校長言いし

鹿児島の醤油は甘しその醤油嫌う妻食むお刺身御膳

あと何度父母ちちははと旅するだろうあたたかい新年の指宿

修学旅行で行きしカナダの写真見せ鹿児島弁で解説をする

鹿児島弁、メープルシロップ、F&B、ちくはぐでちくはぐは楽しい

ヤマアラシ同士がくっつけないようにやがて哀しき血縁関係

鬱病の母の笑える夕飯の和牛御膳に残ったオクラ

森伊蔵飲み比べセット注文の許可をいただく素面の妻に

島津紫のグラス両手でそっと持ち母がひとくちのむ焼酎は

一年と三年ものの森伊蔵薩摩切子のグラス並べて

桜島噴火する朝 きょううちのクラスの生徒はテストしている